

渥美半島を描く

令和7年6月7日（土）～7月27日（日）

豊かな自然に恵まれた渥美半島。

新たに寄贈された作品を交え、この地にゆかりの画家や渥美半島の風景を描いた作品を展示します。

作者	作品名	制作年	材質	備考
永井繁男	渥美土田	昭和時代	紙本着彩	
永井繁男	渥美風景	昭和時代	紙本着彩	
永井繁男	渥美表浜	昭和時代	紙本着色	
永井繁男	たこあげ教室 (スケッチ)	渥美・和地 昭和時代	紙本着彩	
永井繁男	畑の夕日	昭和33(1958)年	紙本着彩	第1回新日展受賞 一般社団法人 学士会館寄贈
永井繁男	渥美風景	昭和34(1959)年	紙本着彩	第2回新日展受賞 一般社団法人 学士会館寄贈
永井繁男	汐川の鴨	昭和時代	紙本着彩	一般社団法人 学士会館寄贈
永井繁男	朝明	昭和時代	絹本着色	個人蔵 参考出品
永井繁男	渥美表浜	昭和時代	紙本着彩	個人蔵
伊東隆雄	地引	昭和時代	紙本着彩	
伊東隆雄	漁	昭和時代	紙本着彩	
平川敏夫	崖松涛風	昭和時代	絹本墨画	
彦坂和夫	日出の石門	昭和32(1957)年	水彩	
彦坂和夫	日出の石門	昭和32(1957)年	水彩	
彦坂和夫	日出の石門	昭和32(1957)年	水彩	
彦坂和夫	日出の石門	昭和32(1957)年	水彩	
彦坂和夫	日出園地	昭和32(1957)年	水彩	
彦坂和夫	半島風景	昭和33(1958)年	水彩	

彦坂和夫	田原湾	昭和33(1958)年	水彩
彦坂和夫	物干し場	昭和34(1959)年	水彩
彦坂和夫	物干し場	昭和34(1959)年	水彩

表記のないものは、すべて当館蔵

田原市博物館

伊東隆雄(いとう たかお) 1928(昭和3)年～2015(平成27)年

1928(昭和3)年、豊橋市に生まれる。1948年、中美展に初入選。豊橋市立南部中学校の教師として勤務するも、画業に専念するため翌年退職。1950年、日展に初入選を果たす。1952年、日本画家の中村岳陵が主宰する画塾、蒼野社で絵を学ぶ。

1960年、蒼野社を脱退し、我妻碧宇や森緑翠らとともに白土会を結成する。以後、白土会展を中心に、サロン・ド・パリ展、韓日精鋭作家展、ニューヨーク国際美術交流展、国際アーティストフェア、中部総合美術展などに出品した。

1955年頃まで盛んに行われた表浜（太平洋側）での地引網の風景をテーマとした多くの作品を描いている。

永井繁男(ながい しげお) 1927(昭和2)年～2018(平成30)年

1927(昭和2)年、豊橋市に生まれる。豊橋市立商業学校を卒業後、2年間従軍。復員後の1950年、日本画家の中村岳陵が主宰する画塾、蒼野社で絵を学ぶ。蒼野社は日展を目指す若い画家たちが入門して活動していた。同時期には白井青淵や伊東隆雄らが在籍していた。永井は蒼野社へ入門した年に日展で入選を果たしている。

1960年、蒼野社を脱退し、我妻碧宇や森緑翠らとともに白土会を結成する。以後、白土会展を中心に作品を出品し、東京や名古屋などでも個展を開催した。

彦坂和夫(ひこさか かずお) 1935(昭和10)年～2021(令和3)年

1935(昭和10)年、渥美郡田原町田原（現在の田原市田原町）に生まれた。田原中学校で仲谷孝夫に美術の指導を受け、愛知県立成章高等学校へ進み、行動美術協会会友の大場厚に学んだ。1953年、大潮会学生の部特選を受賞し、翌年武蔵野美術学校西洋画科に進学。昭和32年、行動美術展入選、1961年には、行動美術展奨励賞を受賞し、翌年会友となった。1980年、行動美術協会を退会して翌年から環境保護活動への取り組みを開始。その意識は、非絵画としての立体芸術に及び、東京都江東区からの依頼による護岸壁画・モニュメントなどで自然と歴史の大切さを訴え続けた。

2011年、田原市博物館にて夏の企画展「彦坂和夫展」を開催、作品17点を寄贈した。

平川敏夫(ひらかわ としお) 1924(大正13)年～2006(平成18)年

1924(大正13)年、宝飯郡小坂井町(現在の豊川市)に生まれる。1940(昭和15)年、京都の稲石着尺図案塾に入門するも翌年、太平洋戦争が始まり帰郷。1947年、我妻碧宇の新日本画研究会で中村正義らとともに学ぶ。1950年、豊橋美術展で豊橋市長賞、創造美術展に初入選を果たす。翌年には、創造美術が新制作派協会と合併し新制作協会日本画部となる。以後、同展に出品する。1954年、新制作展で新作家賞を受賞（1958、1962年も受賞）し新制作協会協友、1963年には、新制作協会会員となる。1974年、新制作協会日本画部が創画会として独立すると会員となり、同展に毎年出品。1981年の中日文化賞をはじめ数多くの賞を受賞。1990年、豊橋市美術博物館で「平川敏夫展」を開催。1995年、創画会運営委員長。2004年には、桜ヶ丘ミュージアムで「幽艶なる樹々の鼓動－平川敏夫展」を開催。当初、樹木の生命力を象徴する独自の画風を確立、やがて色彩を排した水墨の世界へと移行した。渥美風景を取材して描かれた作品を多く発表した。